

令和2年度 第1回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和2年6月3日（水） 午前10時～11時30分
場 所： 新潟市万代市民会館 403・404研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
 河野委員、西條委員、指田委員、塩沢委員、高橋委員、田口委員、永田委員
 事務局（男女共同参画課）
 稲垣課長、堀川課長補佐、新井課長補佐、井上副主査
 団体（敬称略）
 「合気護身術 P.Three」睡蓮
 「劇団 blue ジーンズ」小池
 「NPO 法人 はぐハグ」小口
 「わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト」大橋

- 1 開会
- 2 男女共同参画課長あいさつ
- 3 運営委員・男女共同参画課職員紹介
- 4 男女共同参画市民団体協働事業審査
 - (1) 「自分を守るための"逃げわざ"講習会」（合気護身術 P.Three）の審査
 - (団 体) 事業概要説明
 - (西條委員) 講師がいろいろなことをされていて、魅力的な方だということはわかったが、この方と男女共同参画のかかわりがよくわからない。企画のねらいを教えてほしい。
 - (団 体) 生きづらさを抱えている社会的弱者の生の声をまず伝えてもらい、それからwith コロナに対して人々がこれからやらなければいけない社会全体で取り組んでいく見守り、見て守るという話をしてもらい参考になればと思った。
講師に東京で2～3年前に会ってから、新潟にぜひ呼び出して、一人ひとりの意識向上に向けて講演してほしいという熱い思いがあった。
 - (塩沢委員) 講師の熱意や素晴らしさはわかったが、この事業の特徴として男女共同参画の視点はどうしてもはずせない。社会的弱者といった形で漠然と対象を広げると、女性に対する暴力の根絶の視点が非常に弱いのではないかと。
 - (団 体) LGBT など多様性から起きるいじめや生きづらさにかかわっている方なので、男女共同参画の趣旨にあっているのではないかと思ひ応募した。
 - (塩沢委員) 男女共同参画の講座でも、対象はすべての人なのか。
 - (団 体) 女性だけの意識が向上しても反映していかないのでは、多くの方の意識向上をと思ひ、すべての方を対象とした。社会全体の問題だと思ひている。
 - (2) 「朗読劇公演」（劇団 blue ジーンズ）の審査
 - (団 体) 事業概要説明
 - (高橋委員) この事業内容と劇団としての趣旨はどうかかわってくるのか。ワークショップ

プに参加した方が劇団に参加することは想定されているのか。

(団 体) このワークショップに参加された方には、強制ではないが朗読劇にぜひ参加してほしいと呼びかけたい。

(塩沢委員) 収支予算書の中で人件費がかなりの比率を占めているが、どのような内訳なのか。また、コロナ対策で1万6千円計上しているが、内訳はどうか。

(団 体) 人件費は劇団 blue ジーンズのメンバー10人がワークショップと朗読劇に出て一緒にやる3回分の人件費を計上した。

コロナウイルス対策費は、状況がどうなるかはわからないが、朗読劇で言葉を発するのでフェイスシールドの購入や、当日外出自粛になれば無観客で動画配信するための費用になるのかと考え計上した。

(塩沢委員) 毎年大きな会場で上演しているが、その際の入場費は取らないのか。

(団 体) 今のところは考えていない。劇団 blue ジーンズは今年14年目で、これまで見に来た方から「参加費取らないの」と言われたこともあったが、生活が苦しい方もいらっしゃるので、できるだけ0円でいけたらいいと。いろいろな方に、男女共同参画あるいは性別役割分業、DVなどいろいろな女性問題について、演劇を通じて考えてもらいたい。

(河野委員) 市民の税金というのはみんなご存じなので、参加者から100円か200円でも出してもらい、市、団体からも出し、3者で成り立つようなになるといい。見ごたえのある劇団なのでできると思う。

(団 体) 会に持ち帰って検討する。

(3) 「子育て女性の「私らしい夢」を育む事業」(NPO法人はぐハグ)の審査

(団 体) 事業概要説明

(西條委員) どうしたらいいのか迷っている0~3歳児の母親が集まってワークショップをするが、迷っている皆さんの姿はロールモデルになり得るのか。迷っていてもいいのだと安心するとは思いますが、それだけでは足りない部分があるのではないか。

(団 体) 当初ロールモデルという言葉を使ったが、夢の種として冊子を作るので、応援集という意味合いになると思う。リアルなママ達がどんなであるか知ってもらうための冊子となる。先輩ママからの一言や、こういうことを乗り越えたということも中に入れたい。

(河野委員) 配布する場所は、博物館ではなく小児科に置くなどポイントを絞って、節約しながら無駄にならないようにしてほしい。

(塩沢委員) 冊子を配布して知ってもらうという結論の持っていく方がいいが、その際も費用が発生することを考えておいたほうがよい。

(団 体) 配布先については、検討し直したい。

(指田委員) ママたちの思いを形にするというのはいい取り組みだと思うが、印刷製本費がかなり高額だと感じている。紙ベースだと全員が全部を見るとは限らない。

恐らくこれを見る方達は、同じような世代のママやパパだと思うので、いつそのこと、SNSやwebの媒体などを使えば経費が浮くし、より多くの人に見てもらえる。参加者の成果物として冊子をつくることは良いと思うので、すみ分けをしたらどうか。

(団 体) SNSのほうが、30代、40代は見ると思うが、この冊子は、参加者の方々が

つくることに貢献したという証拠になり、ご自身の自信にもなる。かつ、それを残しておけばお子さんにも伝えることができると思っている。

- (4) 「防災カフェ in にいがた」(わいわい夢工房「防災カフェ」プロジェクト)の審査
- (団体) 事業概要説明
- (高橋委員) 人件費の位置づけがよくわからない。団体の会員が参加する場合は、人件費はなくてもよいと思うが、どういうものが人件費に計上されているのか。
- (団体) 防災カフェは、避難者やお子さんも参加するので、なるべく参加費を取らないようにやっている。その中で、会員制をとっていないので会費もなく、ゼロ円から毎年度やっている状態で、人件費はスタッフの交通費と1日がかかりになる時は弁当代ということで計上している。
- (永田委員) 護身術は、1回やっただけでは身につかず、下手にやるとよりひどい目にあうのではないか。
- (団体) 西区で男女共同参画の事業としてやっている。武術ではなく、力でねじ伏せたり、相手に対抗するのではなく、その場から逃げる、危険を回避する、あくまでも時間稼ぎのもの。大きい声を出したり、そこに行かないことが大事だとまず教えて、逃げられない状況で追い詰められた時にどうするか体験する。
- (田口委員) 防災カフェと聞いたときに、護身術に幅を広げるよりも、震災の話にスポットを当ててもらいたいと感じた。子どもと一緒にいる時に地震が起きた時に、実際にどうしたらいいのか、想像だけでは気づけないこともたくさんあるので、そういうことを伝えたり、考える時間の方が有効なのではないか。
- (団体) 小さな子を持った方がどんなに不安だろうということで、この防災カフェを始めた。いつもそれを念頭に置いているが、座学だけではなかなか足を運んでもらえないので、動くことを混ぜて半々でやっている。
- (田口委員) やるポイントは護身術ではなくて、実際に被災した時の調理方法など、日常の話なのか。
- (団体) ワンポイント情報はかなり入れている。事前に質問をリサーチして講師に伝え盛り込んでもらっている。

(審議非公開)

5 その他

- (事務局) 次回の運営委員会は11月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。

(参考)

決定団体名・事業名

団体名	事業名
劇団 blue ジーンズ	朗読劇公演
NPO 法人 はぐハグ	子育て女性の「私らしい夢」を育む事業
わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト	防災カフェ in にいがた